

### 3 基本目標

#### 基本目標1 次世代につなげるまちづくり(環境・エネルギー)

##### 【KPI 目標値】

指標名	現状値	目標値
温室効果ガス排出削減率	— (2013年度)	2013年度比48%削減
自然環境保護活動参加者数	50人 (2020年度)	100人
住民一人当たりごみ排出量	1年間で約305kg (2020年度)	2020年度比5%削減
リサイクル率	48.5% (2020年度)	2020年度比5%増加

#### 【1-1】ゼロカーボンに向けた新エネルギーの利活用

##### 現況と課題

気候変動が原因の一つとして考えられる異常気象が世界各地で発生しています。日本においても、甚大な豪雨・台風災害や猛暑が頻発しており、地域は大きな影響を受けています。こうした気象災害を背景に、日本では2020年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、ゼロカーボン、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、2021年4月には、2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%の削減を目指すことを表明しました。

本町においては、その原風景を残し、吸収源である豊かな森林や生態系の適切な保全を行いながらも、地域資源を有効利用した再生可能エネルギーへの転換を図っていく必要があります。環境対策が地域経済の成長戦略となるようあらゆる分野で脱炭素を目指し、町民の暮らしや地域経済の改善につながる取組を推進します。

##### 取り組む施策

地球温暖化対策を事業者、町民と一体となって実施し、脱炭素に向けた取組により、地域内で経済を循環させ地域課題の解決及び地域の魅力を向上させることを目指します。そのために、本町の地域資源を最大限活用した再生可能エネルギーを積極的に導入し、2013年度に42千トン-CO<sub>2</sub>(環境省：自治体排出量カルテ)である温室効果ガス排出量を48%削減します。

公共施設・公共インフラにおける更新・改修時の省エネ性能の向上と再エネ・創エネ及び蓄電池等設備の導入を進めるとともに、地域の住宅・建築物に対しても、再エネ・創エネや蓄エネのメリット等をわかりやすく情報発信し、持続可能で豊かな暮らしを実現できる地域づくりを行います。

町民一人ひとりが地球温暖化対策へ取り組めるよう、日常生活の中での行動変容を促し、「社会」や「暮らし」を段階的に脱炭素へと移行していただけるような支援を行います。

- ・再エネ等の地域資源の活用
- ・非常時のエネルギー源の確保
- ・地域内循環経済への移行
- ・公共施設等への省エネ・再エネ・創エネ・蓄エネ設備の導入
- ・町民への情報発信

#### 関連する計画

- ・京極町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

#### 関連 SDGs



## 【1-2】 自然環境の保護と景観の保全

### 現況と課題

羊蹄山より湧き出すふきだし湧水によって町民の暮らしや、大地の実りが支えられています。恵まれた雄大な自然とふきだし湧水が果たす役割は、非常に大きくかけがえのないものであるとともに、そこに訪れる観光客も多いことから、その環境保護との両立を図っていくことが必要です。

ふきだし湧水は、昭和 60 年に環境庁（現：環境省）の「日本名水百選」、平成 13 年に「北海道遺産」に選ばれました。また、平成 24 年 4 月に北海道において、水源周辺の土地が適正に利用されることを目指し「北海道水資源の保全に関する条例」が制定されました。平成 25 年 3 月には本町においても、将来に引き継ぐべき町民共通の貴重な財産である水資源を保全するために、「京極町水資源保全条例」を制定し、適正な土地利用に努めています。本町の豊かな自然を守り続けるため、町民や各団体と連携し、自然環境保護活動に取り組むほか、一人ひとりの意識の向上が必要です。

本町の景観は、北海道景観計画内において羊蹄山麓地区が広域景観形成推進地域となっており、特に広域にわたる良好な景観形成を推進する必要がある地域として定められています。さらなる景観保全を進めていくためには、本町独自の景観に関する指針等の整備について検討していく必要があります。

## 取り組む施策

豊かな自然環境の保全と調和した良好な環境づくりは、本町において非常に重要なものです。

羊蹄山は、登山道としても親しまれ、山頂付近では高山植物を見ることができるため、今後も周辺市町村と連携しながら、その自然環境を大切にしていける取り組みを推進していきます。また、本町のふきだし湧水を水源とする京極・川西地区の取水エリアは「北海道水資源の保全に関する条例」において、水資源保全地域のひとつとして指定を受けており、平成20年には、本町の「羊蹄山麓と農村景観」や「京極のふきだし湧水」が地域資源として認められ、「日本で最も美しい村」連合への加盟が承認されました。今後も自らの地域に誇りを持ち、将来に渡って美しい地域づくりを行っていくことが必要です。水資源・羊蹄山の自然環境の保全を図るとともに、名水の大切さを町全体で共有しながら環境保全に関する取り組みを推進していきます。

- ・北海道と連携した水資源の保全及び開発抑制、企業版ふるさと納税を活用した環境整備
- ・自然環境保護活動の推進
- ・環境保全に対する意識の啓発、学習機会の充実
- ・町民の自主的な活動に対する支援
- ・景観に関する取り組みの整備

## 関連 SDGs



the most beautiful  
villages in japan

京極町  
北海道

「日本で最も美しい村」連合に加盟(平成20年10月7日)  
「日本で最も美しい村」連合の目的は、

- 素晴らしい地域資源を持つ美しい町や村や地区が、「日本で最も美しい村」を宣言することで自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと
- 住民によるまちづくり活動を展開することで地域の活性化を図り、地域の自立を推進すること
- 生活の営みにより形成されてきた景観・環境や地域の伝統文化を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与すること